

平成25年度事業報告

<要 旨>

平成25年度は、公益社団法人へ移行して3年目を迎えた。公益を目的とした事業展開に向け、各事業の取り組みを見直すとともに、運動の効率的な推進を目指した内部改革にも着手した1年となった。

また、運動発足から50周年という節目を迎え、記念式典を会員はじめ運動関係者と祝えたことは今後の運動推進に大きな力となった。

平成25年度は、平成25年度事業計画に記載した「運動方針」と「重点活動」に則して事業を実施。その活動概況を報告する。

1. 平成25年度の運動方針

「会員拡大・仲間づくり —50周年から新たな運動スタート—」

昭和38年6月13日に発足した「小さな親切」運動は、「できる親切はみんなでしょう、それが社会の習慣となるように」をスローガンに掲げ、数々の実践活動を通して思いやりにあふれた豊かな心づくりを推進し、平成25年度に50周年を迎えた。その間、運動は多くの賛同を得て全国に広がり、運動の下部組織として県単位で活動する道府県本部、市町村単位で活動する市町村支部が結成された他、議会で親切の町を議決した「小さな親切」宣言都市も28市町村で誕生した。

その一方で、この50年で経済、科学技術は急速に発展する中で、人間関係がますます希薄となり心痛む事件、事故が連日報道され、大きな社会問題となっている。

50周年を一区切りとし、今までの50年の運動の歩みと成果、課題を見直し、今後の50年を見据えた運動展開の第一歩として、50周年からの新たな運動スタートを掲げ、その根幹として運動を支える会員、そして運動の理解者である仲間づくりに取り組んだ。

特に、50周年記念式典の開催は、会員に運動の重要性を再認識してもらえたと共に、運動関係者、さらには一般の人々に運動の存在と意義をしらしめるよい機会となった。

2. 平成25年度重点活動

1) 創立50周年記念事業（式典、グッズ制作、協賛金募集等）の実施

◇以前より、全国運動の式典には皇室の御臨席をお願いしたいとの要請が会員よりあがっていたことから、宮内庁長官及び宮内庁を通じて御臨席を要請した結果、常陸宮同妃両殿下の御臨席が実現した。

◇理事会の中に、50周年記念事業委員会を設置。メンバーは、脇田副代表をはじめ稲見理事、熊木理事、杉理事、鈴木理事、宮本理事、山橋理事の7名で、式典運営全般について会議を重ねた。

◇会員拡大・仲間づくりに活用してもらおうと、地方組織を中心に記念グッズを無料で提供した。記念グッズは、「ノート」「シャープペン」「消える蛍光ペン」「クリアファイル」の4種類。いずれも好評で、会合や行事、街頭ピーアール活動等に活用された。

◇事業協賛金の募集は、地方組織、会員を中心にお願い文書を送付するほか、「小さな親切」誌、ホームページを通じて広く呼び掛けた結果、協賛金が4,113,400円寄せられた。

◇50周年記念DVDを制作。運動の歴史を知る材料として、地方組織を中心に活用された。

2) 公益目的事業の実施

◇公益目的事業1～4は、事業計画に基づき滞りなく実施することができた。

3) 支部の組織化

◇地域に根ざした活動を推進する支部の組織化に取り組み、千葉県御宿支部が発足。一度解散した支部の再発足は、今後の組織化に向けての大きな指針となった。

4) 業務改革

①年会費を「年度会費」に変更

◇190,000名を超える会員管理を効率よく的確に行うために、年会費を年度会費に変更。変更の際は、個人の意思を確認する文書を本部から送付するほか、地方組織に確認を依頼する等した。その結果、大部分が年度会費を了承した。

②送料請求時期を年2回（上半期：10月、下半期：3月）に変更

◇購入希望の物品等の代金&送料をこれまで発送する度に行ってきた。これにかかる入金の際の振込手数料を削減しようと、代金&送料請求を年2回に集約。これによって、振込手数料を削減することができた。

＜事業活動＞

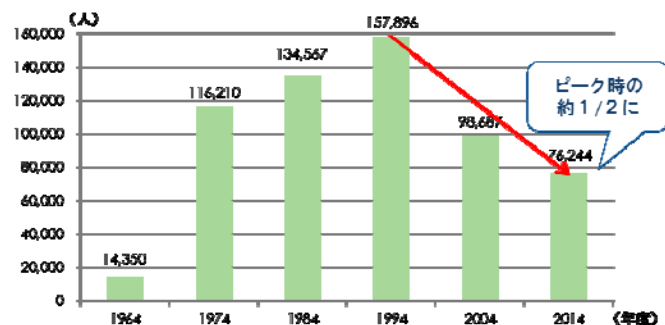
公益目的事業 1

【公1 = 「小さな親切」運動を通じて国民の心身の健全な発達と豊かな人間性を涵養】

1. 「小さな親切」実行章贈呈事業

- 「小さな親切」実行章は運動発足時から取り組んでいる基幹事業である。地域の親切実行者を発見し、運動本部に推薦。本部では実行章選考委員会で受章者を決定する。実行章の推薦は毎月25日に締め切り、翌月25日に受章者を「小さな親切」誌に発表すると同時に、実行章賞状を送付している。
- 平成15年5月に個人情報保護法が制定されて以来、親切実行者の氏名、住所を聞くことが困難となり、せつかく親切行為を発見しても推薦できないという状況が発生。実行章の推薦が減少傾向をたどっている。平成25年度の実行章贈呈者数（平成26年3月25日発表）は、76,244名で昨年比7,376名減少。これまでの実行章贈呈者数累計は5,592,888名となった。平成25年1月25日発表で、福島県玉川村立川辺小学校が550万人目の受章者となり、創立50周年記念式典で、実行章を贈呈した。
- 実行章の推薦は所定の用紙のほか、葉書・封書、ファックス、運動本部のホームページでも受け付けているが、今年度は徐々にではあるがホームページからの推薦が増加した。

【実行章受章者数の推移】



2. 第38回「小さな親切」作文コンクール

- 昭和51年から、作文を書くことで親切について考えてもらおうとスタートした作文コンクールは38回を迎えた。対象は小・中学生で、テーマは「私のした、うけた、みた、できなかった親切」。今年度は応募総数は46,734編（内訳：小学生10,702編、中学生36,032編）で、昨年比1,105編減となったが、中学生の応募は増加した。小学生が減少した要因としては、夏休みに多くのコンクールの募集が集中することから、1校あたりの応募者数が減少したことがあげられるが、学校数としては増加した。中学生の増加を受け、中学校むけの作文審査員層の拡大が今後の課題となった。
- 地方組織では地方予選会として独自に作文コンクールを開催し、その上位賞を運動本部に提出。これにより、地元の多くの小中学生を表彰すると共に、中央本部の作文コンクールに入賞というワンランク上の表彰を演出することができた。今年度は静岡県本部が県本部主催の作文コンクールをスタート。これにより独自に作文コンクールを開催している地方組織は、12道府県本部、18市町村支部となった。
- 作文審査は、3段階で実施。第一次審査（審査員：10名 期間：9月25日～10月2日）、第二次審査（審査員：6名 期日：10月12日）、第三次審査＝審査会（審査員：4名 期日：

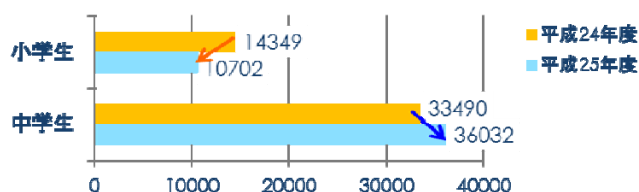
10月31日)。地方組織から提出された上位賞作品は、第二次審査からの審査となる。

- 作文審査会では、優劣つけがたい作品が多かったため特別に「審査員特別賞」の設置が決定。小・中学生各1名に贈呈された。11月30日の表彰式には、全国各地から219名（入賞者65名・保護者154名）が出席した。

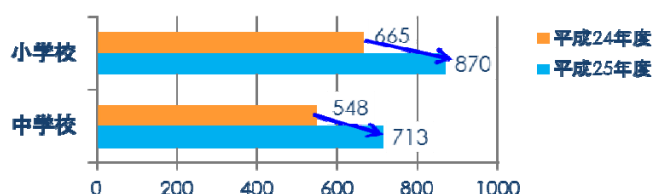
〔作文要項〕 後援 内閣府 文部科学省 NHK 毎日新聞社
協賛 カシオ計算機㈱
テーマ 「小さな親切」ー私のした・うけた・みた・できなかった親切ー
入賞者 132名（審査員特別賞を増設）
内閣総理大臣賞1名・文部科学大臣賞1名・運動本部賞2名
特別優秀賞6名・審査員特別賞2名・優秀賞20名・入選100名
副賞 メダル、デジカメ、電子手帳、電波時計〔提供：カシオ計算機㈱〕
要項・入賞発表 毎日新聞／ 5月25日（土） 11月21日（木）
教育新聞／ 6月20日（木） 12月12日（木）
締め切り 平成25年9月25日（水）必着
表彰式 平成25年11月30日（土） 全国表彰式席上

〔作製物〕 ポスター 5,700枚 要項 9,600枚
作品集 5,000部／平成26年2月14日発行
タイトル：『きみのこころにありがとう』（作文・はがき合併号）

【小・中別 応募数比較】



【小・中別 応募校数比較】



3. 青少年すこやか育成事業 <（公財）JKA 補助事業>

- 被災地の子どもたちの創造力を引き出し、豊かで健全な心の育成を助けていくこと。また、それ以外の地域の子供たちにも、被災地の現状を伝え、考えさせるなかで、他者を思いやる心、痛みを分かち合う心を育てることを目的として、各種青少年育成プログラムを実施。
- 具体的には、被災地における工作教室と声優による紙芝居上演の実施と、被災地以外の地域におけるオリジナル紙芝居活用道徳授業の展開。オリジナル紙芝居は、被災地に取材したもので、災害時における思いやりの大切さを描いた内容となっている。
- 被災地では、現在でも心のケアを必要とする子どもたちが多く、日常から少しでも解放されるような今回のプログラムは「今だからこそ必要」と歓迎された。また、紙芝居活用授業および読み聞かせは、各地で大きな災害が懸念される中、防災意識を高め、また緊急時の中の思いやりの大切さを考える内容であるとして高く評価された。

〔被災地向け活動〕

①工作教室 「世界に一つだけの絵本作り」

板絵画家で相模女子大学特任教授の有賀忍氏を講師に迎え、平成26年1月および3月に、福島県および岩手県の小学校2校で、子どもたちの独創性を引き出

す絵本作りのワークショップを実施。

②声優による紙芝居上演

アニメ「ちびまる子ちゃん」のブー太郎役でおなじみの声優・永澤菜教氏を迎え、平成26年3月、宮城県・石巻市内の小学校2校で、紙芝居朗読を実施。

〔被災地外向け：「つなみのひ」を用いた紙芝居授業の実施〕

一般社団法人総合初等教育研究所室長の馬場喜久雄氏、済美教育センター指導教授の宮島盛隆氏を講師に、全国の小学校で道徳授業（一部放課後子ども教室）を実施。学校選定にあたっては、各県本部・支部、また講師に協力いただき、立地面や防災意識（海に近い、大地震が予測されている、学校に被災者を受け入れていたなど）も考慮し、決定した。平成25年9月から26年3月にかけて、山形県2校、東京都2校、千葉県1校、静岡県3地域6校、宮崎県1校で授業を行った。

〔専用サイトを活用した教育活動〕

オリジナル紙芝居「つなみのひ」は、低学年から高学年までどの学年でも活用できる教材であることから、それぞれの学年に対応した紙芝居授業指導案開発を講師に依頼、ホームページに掲載した。またワークショップや紙芝居上演、紙芝居授業の様子もアップしている。なお、本サイトは、防災意識の向上につながるとして、防災教育に関するホームページ「ほっかいどうの防災教育ポータルサイト」（北海道庁）でも紹介された。

4. みんなつながる、トモダチ作戦事業 -新規事業-

○茅誠司初代代表の考案した「小さな親切」八か条は、日常生活の基本として多くの会員の活動指針として親しまれてきた。近年、青少年を中心に言葉の暴力が社会問題となっていることから、学校、地域の中で、朝夕のあいさつに加え、感謝の言葉「ありがとう」、謝罪の言葉「ごめんなさい」「失礼しました」等を、もっと積極的に交わすことで人と人の心を結ぶことを目的とした活動に取り組むことにした。

○平成25年度の事業スタートを目指し、補助金の申請を行っていたが得られず、自己資金で事業を展開することになったころから、初年度はあいさつ推進グッズを製作。当事業は5ヶ年をかけて取り組むことを予定。地方組織の期待が大きいことから、青少年の心づくりの核となる活動へと推進していかなくてはならない。

〔あいさつ推進グッズ〕

配布対象	小学生、中学生、企業、団体、その他地域
グッズ	実施希望先への「たすき」「のぼり」「ポスター（2種）」
実施箇所数	100箇所程度 （1箇所につき、のぼり5セット、たすき10枚、ポスター2枚程度） ※なお、ポスターについては、運動実施先以外にも配布

5. ことばの魔法プロジェクト

1) 第29回「小さな親切」はがきキャンペーン “てのひら感謝状”

○昭和60年、万時電話で間に合わせて文字を書く習慣が薄れつつある中、せめてはがきぐらいは書いて心を伝えようと、「はがきキャンペーン」をスタートして29回目を迎えた。作文コンクールが小中学生を対象としていることから、はがきキャンペーンの応募者は大半が大人で大人向けエッセイコンテストとして定着。平成25年度の応募総数は1,828編。少しずつ応募総数が減少していることと、応募者の高齢化、リピーターも多いことが問題となっている。今後はテーマの見直し、告知方法の再検討、会員の参加を促すなど打開策を検討する必要がある。

○はがきキャンペーンの作品は短い文章に心に残る体験談が綴られ、読む者を感動させることから、入賞作品を収録した書籍（「涙が出るほどいい話」「思わず泣けるいい話」「胸が熱くなるいい話」）が出版され、多くの人々に読まれてきた。それら書籍は、ラジオ（J-WAVE、各ローカルラジオ局）で朗読されるほか、作品を元にNHK、読売テレビ等でテレビ番組が制作されたり、携帯端末情報サービス（テレビ朝日ニュースEX）で作品が紹介された。

○11月30日の表彰式には、23名（入賞者10名・家族13名）が出席。

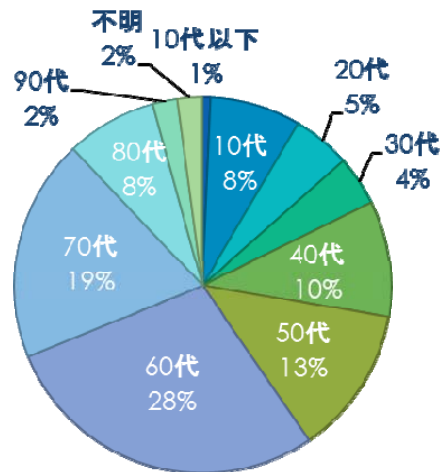
〔はがきキャンペーン要項〕

後援	日本郵便㈱	読売新聞社
協賛	㈱河出書房新社	
テーマ	あなたへありがとう	
入賞者	25名	
	大賞 日本郵便賞1名・運動本部賞1名・読売新聞社賞1名 河出書房新社賞1名・ハートフル賞1名・入選20名	
副賞	クリスタル楯、額、切手帳、図書カード、ボールペン	
要項・入賞発表	読売新聞／	7月26日（金） 11月15日（金）
表彰式	平成25年11月30日（土）全国表彰式席上	

〔作製物〕

応募要項	6,500部
作品集	5,000部 / 平成26年2月14日発行
	タイトル『きみのこころに ありがとう』（作文・はがき合併号）

【はがきキャンペーン応募者の内訳】



2) 一人暮らしのお年寄りへ「お便り便」

○高齢化が進み、一人暮らしのお年寄りが増加。北九州市本部では一人暮らしのお年寄りに年賀状を書いて送る活動を継続しており、地元メディアに度々取り上げられている。一方で、個人情報保護法によりお年寄りの住所を入手することが困難となっており、今後の継続が危ぶまれている。

3) 記念日に大切な人へ Thanks Letter

○心を文字で伝えるという点でははがきキャンペーンと同じだが、エッセイコンテストではなく、個々の日常生活での心構えを提唱するものである。

6. 50周年記念「小さな親切」運動全国表彰式

- 例年、年度を式典名につけていたが、平成25年度は創立50周年を迎えたことから式典名を50周年記念とした。表彰式は2部構成で、第1部では内閣官房長官賞をはじめ事業表彰を行い、第2部では賛助出演によるハートフルコンサートを実施。参加者は295名。初めて親切運動に触れる参加者に、親切運動を知り、あたたかな心のぬくもりを感じてもらった。
- 50周年を記念して、会場には昭和38年7月、第1回「小さな親切」実行章受章者の川瀬明子さんが出席。幅広いボランティア活動を続けている沖田孝司・千春夫妻（ハートフルコンサート出演者）に、実行章の贈呈を行った。実行章受章を心にとめ成長し、小学校教諭となった川瀬さんの言葉が、実行章の重みを会場に伝えた。引き続き行われたハートフルコンサートでは、参加型アトラクション（手話）が参加者を感動させた。
- 今年度も地方組織の事務局長等6名が運営サポートとして協力いただき、スムーズに運営を行うことができた。

〔後援〕 内閣府 文部科学省 NHK

〔日時〕 平成25年11月30日(土) 12:45~15:00

〔会場〕 東京・霞が関ビル35階 東海大学校友会館

〔プログラム〕 司会 金野正人

(一般財団法人NHK放送研修センターエグゼクティブアナウンサー)

主催者あいさつ 代表 田中義具

来賓あいさつ 内閣府大臣官房総務課参事官 高山康次

表彰 内閣官房長官賞 5名

柏木 清英／埼玉県本部実行委員 与野支部代表

鈴木 弘昭／東京都武蔵野市支部副代表

井上 雅男／山口県柳井支部前代表

佐久田みさ／千葉県御宿町正会員

土館一二三／秋田県本部副代表

「小さな親切」運動大賞 1団体

千葉県 専修大学松戸中学校・高等学校

「小さな親切」運動賞 4団体・1個人

青森県 障害者支援施設金浜療護園

長野県 上伊那支部

島根県 株式会社三栄

広島県 福山支部

福井県 逸見壽一／福井県本部副代表 小浜支部代表

第29回はがきキャンペーン “てのひら感謝状”

第38回作文コンクール

入賞作品朗読 内閣総理大臣賞 東京都 暁星小学校2年 天羽俊輔

文部科学大臣賞 熊本県 熊本市立河内中学校3年 藤森あきの

実行章贈呈 授与者：川瀬明子／実行章第1号受章者

受章者：沖田孝司・千春夫妻

賛助出演 沖田孝司&千春夫妻のハートフルコンサート

閉会あいさつ 専務理事 山橋由貴子

7. 「小さな親切」誌の刊行 <(財)日本宝くじ協会助成事業>

- 一般情報誌「小さな親切」誌は年4回の季刊発行（春号5月・夏号7月・秋号10月・新春号1月）で、発行部数は年間延べ158,000部。平成25年度は創立50周年を記念して、秋号10月号を50周年記念特別号として発行し、広く図書館、公民館、学校をはじめ会員、運動関係者等に配布した。また、各号でも運動の歴史を紹介するページを設けた。

[内 容]

◇春号5月：特集「小さな親切」運動創立50周年

「小さな親切」運動50周年に思う 代表 田中義具
一隅を照らすもの～「小さな親切」運動のこと 初代代表 茅誠司
新聞で振り返る「小さな親切」運動
創立50周年記念マスコットキャラクター決定！

◇夏号7月：特集「小さな親切」運動創立50周年

常陸宮同妃両殿下をお迎えして 創立50周年を華やかに祝う
新聞で振り返る「小さな親切」運動

◇50周年記念特別号10月：

50周年を迎えて 代表 田中義具 ・ 顧問 川嶋 優
活動展望 顧問 原 禮之助 ・ 顧問 篠原康次郎
「小さな親切」運動の50年の歩み、その時代
親切さんを探して ペギー葉山／歌手・有森裕子／元プロマラソンランナー
川瀬明子／小学校教諭・小林和明／城南信用金庫顧問
「小さな親切」運動の活動
私たちの50周年

50年を支えてくれた仲間たち 一道府県本部紹介 一

公益社団法人「小さな親切」運動本部基本情報

◇新春号1月：50周年記念「小さな親切」運動全国表彰式

第38回作文コンクール・第29回はがきキャンペーン入賞発表

- 「小さな親切」誌は季刊発行でタイムリーな情報提供が行えないことから、今後はホームページ、Facebookとの連動を図っていく。

8. 全国組織の育成

- 全国津々浦々まで運動を広めるには、地元で根ざした活動を展開する地方組織の存在は大きい。運動本部では各種実戦活動を推進するための用具・ポスター等必要最低限度の協力をしているが、実際に事業を推進するためには費用がかかることから、地方活動助成(10,205,000円)を6月に交付した。

- 全国運動を強力に推進するために年1回全国地方本部事務局長会議を開催し、運動展開方法や新事業の趣旨や取り組み方法、問題点等について話し合いを行っている。今年度はパワーポイントを使用するなど会議運営に工夫をしたほか、成果と課題を提示した結果、熱心な会議となった。

[日 時] 平成26年2月14日(金) 13:00～18:30

[会 場] 東京・ベルサール飯田橋駅前 2階会議室

[出席者] 24道府県本部事務局長・事務局次長・事務局担当者24名
運動本部理事・事務局員9名

- 親切運動の理解を深め、賛同者を得るために、講師派遣や会議出席依頼に応じたほか、地方組織等の総会、実行章贈呈式、つどい等に祝電を送った。

[依頼件数] 講演6回、総会・つどいなど10回、ロータリー卓話1回、葬儀参列3回

- 現在、33道府県に県本部があるが、全国運動を展開するには未組織県の組織化が求められている。そこで、理事会にて候補県に茨城県を選定。まずは、県の状況等をリサーチした。

- 市町村単位の組織である支部も、高齢化による解散が増加。支部づくりも課題となっていたおり、一度解散した千葉県御宿支部が会員の熱心な活動に賛同した町長らの協力を得て、26年3月15日(土)に再結成した。再結成への動きは、佐久田氏に内閣官房長官賞を授与したことがきっかけで、今後の表彰者選定の一つのヒントとなったほか、新たに支部をつくるのではなく、解散したが地元で親切の種が残っている地域にも働きかけられるとの方向性を示した。

○パンフレット、ポスター等は在庫を残さないよう事前にアンケートを行って作製した。

〔作製物〕 基本資料：「小さな親切」八か条カード（名刺サイズ）180,000部
2つ折パンフレット 15,000部

○50周年をただ祝うのではなく、50年以降の運動をさらに広めるために活用してもらおうと50周年記念グッズを作製。地方組織等に無料提供したところ、ピーアール用品としても大いに活用され、好評だった。

〔作製物〕 ノート25,000冊・シャープペン8,500本・消える蛍光ペン7,550本
クリアファイル60,000部

9. 「小さな親切」運動本部特任推進委員の委嘱

○熱心に運動を推進してくれている会員に、「小さな親切」運動本部特任推進委員を委嘱している。特任推進の多くは「小さな親切」実行章に取り組み、地域の親切実行者を推薦し賞状を伝達するなど活躍。現在、特任推進委員総数は17名。

公益目的事業 2

〔公2 =高齢者及び障害者の福祉の増進を目的とする事業〕

1. 地域活性生きがい支援事業 <独立行政法人福祉医療機構助成事業>

○助成事業として2年目。1年目は東京都板橋区高島平一か所だった地域を、埼玉県秩父郡小鹿野町と千葉県船橋市薬円台の二か所に拡大し、高齢者および熟年世代を対象に活動した。活動内容としては、①IT（タブレット PC）の活用促進・IT講座の開催（基本操作講習：両地域で15回ずつ実施。参加者数はのべ342名／応用操作講習：両地域で7～8回ずつ実施。参加者はのべ170名）、②IT講座講師育成（両地域で5回ずつ開催。8名の講師候補を育成）、③タブレットPC講習プログラム・マニュアル作成、④告知活動、⑤交流会の開催。地元NPOとの連携により、拠点と参加者の確保は容易に行えた。

○個人のタブレットPCのスキルレベルアップ、Face Timeを利用したビデオ電話による二地域の交流を行うことで、つながる楽しさを実感してもらった。これによりタブレットPC購入が進み、遠方に住む家族と交流する参加者も現れた。

○交流会は12月と1月に2回実施。都心部・薬円台団地の講習会参加者が、過疎地域である小鹿野町を訪問して、参加者同士の交流を行った。事前にビデオ電話で、薬円台の参加者から行きたいところ、食べたいものなどの話を聞き、小鹿野町の参加者がこれを準備して迎えるなど、コミュニケーションが生まれた。1回目は「小鹿野てっぼうまつり」を、2回目は「小鹿野氷柱まつり」を見学。薬園台からの参加者はのべ70名。

○25年度の活動は報告書にまとめ、会員および関係各所に配布。

○2年の活動により、高齢者向けタブレットPC講座プログラムの開発を行うことができたのは大きな成果といえる。WAMの助成は今年度で終了するため、本部からの講師派遣が難しい場合、各地ごとのインストラクター育成などに、ノウハウを生かしていくことができないか、検討したい。

2. 地域の輪・和・環プロジェクト

○高齢化社会の到来を受け、身体の不自由な方々やお年寄りが積極的に社会参加ができることを願い、平成11年度より車椅子寄贈運動をスタート。寄贈先の選定にあたっては、地方組織を介して地域の生の声を調査。必要としている施設や病院等に寄贈した。25年度は、車椅子利用者の立場にたった介護の仕方を車椅子を使って学びたい、との要望が寄せられたことから、小学校などへも寄贈。寄贈先に広がりが見られた。

〔寄贈台数〕 102台 92か所

公益目的事業 3

[公3 =地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業]

1. 日本列島クリーン大作戦 (31 回目)

○昭和 58 年、20 周年記念事業としてスタートした日本列島クリーン大作戦は、国や自治体が空き缶条例など関連法規を見直すなど環境問題がクローズアップされた年で、民間団体として全国に先駆けて取り組んだ活動である。年を重ねるごとに参加者は増え、ごみを捨てることからエコやリサイクル活動へと活動の輪を広げている。25 年度参加者総数は 357,810 名 (5 月 9 日現在速報値)。

〔後 援〕内閣府、文部科学省、農林水産省、国土交通省、経済産業省、総務省、環境省、警察庁

〔協 賛〕日本たばこ産業株式会社、スチール缶リサイクル協会、コ・コーラ協会、日本石鹼洗剤工業会、(公社)食品容器環境美化協会、(公財)日本環境協会、

〔スローガン〕美しい日本、美しい心

〔作製物〕ポスター 2,000 部

○クリーン作戦に使用のごみ袋は、会員企業の日本たばこ産業(株)が毎年提供してくれている。25 年度は 346,510 部 (30ℓ袋 : 275,330 部、12ℓ手提げ袋 : 71,180 部)。JT はこの他に、ごみ袋の発送費を負担してくれているが、予算縮小のため、26 度よりごみ袋の種類変更、枚数減、発送費の自己負担等を告げられた。近い将来、ごみ袋の提供が終了することも予想され、自主活動への転換等について検討の時期を迎え、活動している地方組織の意見等も聞き取つつ対応を考えたい。

エコキャップ収集運動 (5 年目)

○日本列島列島クリーン大作戦の一環として、平成 21 年度より、地域の限りある資源を大切にすると共に参加者が活動の成果を実感できる活動としてスタート。捨てればごみとなるペットボトルのキャップを収集し、その売却益で世界の子どもたちにワクチンを届ける活動で、手軽で取り組みやすいことから、学校を中心に広がりを見せている。

○収集したエコキャップを回収業者に送る発送費は現在、事業協賛企業である(株)ニヤクコーポレーションに協力してもらっているが、活動が広がりとともに金額も増えていることから、今後はエコキャップ推進協会との連携や活動の見直しを行いたい。

〔参加者〕地方組織 13 件、その他 学校、団体会員、個人

〔収集量・ワクチン数〕 53,733,953 個 102,655.4kg ワクチン 62,481 本

2. 日本列島コスモス作戦 (25 回目) <協力 : (株)サカタのタネ>

○昭和 62 年、コスモスが運動のシンボルフラワーに決定。以来、日本列島クリーン大作戦とあわせてクリーン&グリーン活動として取り組まれている。近年は、コスモスの種子袋はコンパクトかつ安価な運動ピーアール用品としても活用され、北九州市のスーパーマーケットから大量の注文(顧客への提供)が寄せられた。今後は、種子袋のデザインを変更し、運動啓発資料としての役割もつけていきたい。

〔コスモス種子袋および種子の斡旋〕 種子袋 : 138,430 袋 種子 : 62.8ℓ

3. 使用済み切手・プリペイドカード・未使用はがき寄贈

○個人で無理をせず取り組む活動として、使用済み切手・プリペイドカード・未使用はがき寄

贈運動を展開。25年度の協力者は、8地方組織・企業14社・学校1校・個人15名。協力者氏名はホームページに掲載。

公益目的事業 4

[公4 = 国際相互理解と友好の促進事業]

1. 心の国際交流

- 平成5年、30周年記念事業として「心の国際交流」をスタート。以来、親切運動を展開している世界の仲間と交流を続けた結果、平成9年に「親切運動」を設立した。メンバー国は21か国。情報交換と交流を目的に、数年ごとに世界交流会議を開催してきたが、代表および事務局の交代を機にメンバー間に不協和音を生じたが、日本としては今後の動きを静観していきたい。
- 25年6月の創立50周年記念式典に「世界親切」運動のメンバーを招待したところ、3名がお祝いに出席。
〔出席者〕 Singapore Kindness Movement : Michelle Tay
World Kindness China : Eric Kwok、Catherine Tam
- 世界親切運動の代表と事務局を務めてくれたシンガポールは、今回の交代を機に脱会したが、今後も日本との交流を希望している。9月2日、被災地支援活動に来日したシンガポール親切運動の事務局スタッフと交流した。

<収益事業>

1. はがきキャンペーン作品の書籍化

- 著作権を有するはがきキャンペーンの作品（「涙が出るほどいい話」等単行本）を、河出書房新社を通じて書籍化することができず、25年度は印税が得られなかった。「はがきキャンペーン」の項目に記述したとおり、応募数の減少に伴う作品の質の低下が一番の原因であった。今後は、書籍化することを前提とした「はがきキャンペーン」の企画づくりを、出版社等とともに協議する。

<管理部門>

1. 記念事業 「創立50周年記念式典」

- 昭和38年6月13日に発足した運動は、半世紀の時を経て50周年の大きな節目を迎えた。そこで、創立50周年記念式典を盛大に開催。記念式典は、表彰をはじめ記念講演、祝賀パーティーで構成され、全国各地から参加した会員をはじめ運動関係者らが参加した。
- 記念式典は様々な協力のもと開催された。読売新聞では「KODOMO新聞」に特集記事を掲載。記念品のお酒は会員企業の特製ラベル付き。会場運営は地方組織事務局長らのサポートとたくさんの力を結集して行われたものである。

〔日 時〕 平成25年6月14日（金）

〔会 場〕 ホテルグランドアーク半蔵門

- | | | |
|-----------|-------------|---------|
| ・ 記念式典 | 16:00~16:40 | 3階 光の間 |
| ・ 講演会 | 16:50~17:50 | 〃 |
| ・ 祝賀パーティー | 18:00~20:00 | 4階 富士の間 |

〔プログラム〕 司 会：露木茂（フリーアナウンサー）

来 賓：記念式典 常陸宮同妃両殿下、義家弘介文部科学大臣政務官、

祝賀パーティー 山東昭子参議院議員、山谷えり子参議院議員
講演：演題 「次世代に伝えたい心 ～住みやすい地域、国づくり～」
講師 鎌田 實 (医師・作家)

祝賀演奏：読売日本交響楽団メンバーによる弦楽四重奏

〔参加者〕 講演会 170名

祝賀パーティー 300名

〔記念品〕 1) KONISHIKI CD 『ありがとう～Thank your kindness～』

2) 東光 純米大吟醸

- 50周年を記念して「創立50周年記念事業協賛金」を募集したところ、総額4,113,400円（26年3月末現在）の善意が寄せられた。協力者氏名は①創立50周年記念式典プログラム、②ホームページに掲載。
- 50周年を記念して、学校会員、団体会員の児童・生徒に「小さな親切」八か条を送付したところ、教師の分もとの要望が寄せられた。
- 運動の歴史をまとめた「50周年記念DVD」を㈱東北新社の協力を得て500枚作製し、地方組織に配布した。ナレーションは記念式典の司会を務めてくれた露木茂氏。祝賀会で上映したところ、地方組織の評価が高く、今年度各地で開催された総会、集会等で上映が相次いだ。

2. 総会・役員会

- 25年6月27日（木）、第3回社員総会を東京・ベルサール飯田橋駅前2階会議室にて開催。創立50周年式典を終え、新たなスタートラインに立った運動をさらに全国的に展開していくと話合った。
- 理事会は5回開催。第12回理事会／5月23日・第13回理事会／6月27日、第14回理事会／9月12日、第15回理事会／12月12日・第16回理事会／26年1月30日

総務・経理・会員管理など

1. 会費制度および、送料等に関する請求方法の変更

- 年会費を「年度会費」に変更したところ、大きな問題なく変更を完了した。
- 地方組織への物品等の送料の請求を年2回（上半期：10月、下半期：3月）に集約した結果、振込手数料を節約することができた。
- 会員証・バッジについては昨年度の数を基に作製数を決定。会員証については、職員の手書き、パウチで作製していることから、プラスチック化等検討したい。

広報活動

- WEBサイトを通じた情報発信として、Facebookを活用したところ、会員、組織以外の方にも、運動を知ってもらうきっかけとなった。運動本部や地方組織の活動報告や情報の更新をリアルタイムで行うことで、フォロワーが増加。今後はホームページのさらなる充実を図ると共に、YouTubeに専用チャンネルを設け、映像での情報配信に取り組みたい。
- メディアへの情報の発信や、番組制作会社・地方組織等との連絡調整が重要となっていることから、これからは広報活動に力を注ぐ必要があると思われる。

会員の概況

会員区分	平成26年3月31日現在		平成25年3月31日現在		昨年度比	
正会員	138名		143名		-5名	
法人会員	63社		65社		-2社	
個人会員	9,526名		9,819名		-293名	
団体会員	123,994名		129,347名		-5,353名	
学校会員	101校	58,971名	215校	124,437名	-114校	-65,466名
総会員数	192,692名		263,811名		-71,119名	

地方組織の概況

○平成26年3月31日現在、33道府県本部、141市町村支部